

中等習字教科書

下

K220.72

69a

3

K220.72

69a

3

川
98
1951

師範學校 科

甲
子時屬
檢定
冊

弘道館編輯部編

中華書局
五木
教科書

書圖省部文
新319个
共2冊

1951. 文館行寄贈

身體髮膚受之父母

不敢毀傷孝之始也

立身行道揚名於後

世以顯父母孝之終也

月落烏啼霜滿天

下三

江楓漁火對愁眠

姑蘇城外寒山寺

夜半鐘聲到客船

朝霞白帝彩雲紅

十五

千里江陵一日還

為岸猿考啼不任

種舟己己何美重山

宇宙の森羅万象皆心
用ふべく心は善美すべく

心は善美すべく心は精神
を善美に是るを善し

教育勅語

朕惟我皇祖皇宗肇國宏遠樹
德深厚我臣民克忠克孝億兆

下八

一心世濟厥美此我國體之精
華而教育之淵源亦實存于此
爾臣民孝于父母友于兄弟夫

婦相和朋友相信恭儉持已博
愛及衆修學習業以啓發智能
成就德器進廣公益開世務常

下九

重國憲遵國法一旦緩急則義
勇奉公以扶翼天壤無窮之皇
運如是者不獨爲朕忠良臣民

又足以顯彰爾祖先之遺風矣
斯道也實我皇祖皇宗之遺訓
而子孫臣民之所當遵守通諸

下十

古今而不謬施諸中外而不悖
朕庶幾與爾臣民俱拳拳服膺
咸一其德

奢る者を富みても足らず
儉なる者を貧乏くして餘あり

奢る者之心常に貧しく
儉ふる者之心常に富む

子年东东之者久各为妇
来来气气直直直直直直

高...
...
...

欵欵勅勅勅勅勅勅
勅勅勅勅勅勅勅勅

勅勅勅勅勅勅勅勅
勅勅勅勅勅勅勂勂

孫孫兮寧廟府以以國國
燕塵矣矣憾憾彼彼款款

隨隨旌旌取鶴莫莫心心憐
漫漫遊遊猿猿流流歌歌都都龍龍龜

代口

喜言言事人の交遊は清く多く哉
先以辰年以來龍居中は女子等

の書籍は許借厚座を以て日々
古人を当友と交遊志し各不怠
或海山より來る廿七日發途陽山

積ふ又くは換抄何そす志を表し
中なるは其の事の一書なりおが
何の事も不任意時にあるの厚志

所詮は報おいて謝しおしはわけふ
世のいふ何れも是れじふ中一は拙書は
先づ其の想の事と云ふはくはりの事

舊字おろしお摺込みにて反故
同様如何敷くとも以中わけの證
中で逢道美嬌難中草紙家僕

口頭にて承知にいたし交せり

正月十九日

东湖

玉峯堂主人

徳川家康遺訓

人の一生を重んずる事ありて遠き
道をゆくが如き急ぐべからず

不自由哉常と思へば不足なし
心に發起らば困窮志たる時を
思ひ出すべし堪忍は善し

長久の基ぬえ教と思へ縁つ
ことばよりおりて敗るる事を
あらざれば言その身にいたる

おのまきを責るる人残責む
るふ及ばざる事おぼしたるを
あきらむ

伊勢神宮

よりて

何事のおほいすかえ知らねども

かたむけふた涙をばらりて西坊

春の海路のたりくかな 暮村

大みそかたのめなませのうらめかな 西坊

仙客來遊雪外巖
神龍栖老洞中潭

十一

雪如紈素煙如栢
白扇倒懸東海天

中等習字教科書 下ノ卷

身體髮膚受之父母。不敢毀傷。孝之始也。立身行道。揚名於後世。以顯父母。孝之終也。(孝經)
月落烏啼霜滿天。江楓漁火對愁眠。姑蘇城外寒山寺。夜半鐘聲到客船。(張繼)
朝辭白帝彩雲間。千里江陵一日還。兩岸猿聲不住。輕舟已過萬重山。(李白)
宇宙の森羅萬象皆以て用ふべく以て嘆美すべく以て精神を養ふに足るるし。(エーソン)
奢る者も富みても足らず儉なる者も貧乏くして餘あり奢る者も心常々貧しく儉なる者も心常々富む(諺)

〔章書〕 幸牛東東道常水永歸婦 來成幾歲惠盡畫畫庭庭 齊齋惑感復後泰卷勞勞 流染
傳傳別列封對舉集 嚴巖勅勅勤勤勸勸劉劉僕漆 命念義叢壹壹壺壺衆衆 徹徹救救叙還環舞
辭辨辯 遙飄終疑彩彩咲咲喚喚載載 孫縣寧寫廊廊吳吳吹園園 鹿塵奕奕滅滅鼓鼓皴顏顏 隨
隱雜雜趣趣莫莫慕慕憐憐 漫避膽麗淵淵潯潯齡齡辟辟龍龜
何事のおはしますか。知らねどもかたむけあさに涙こぼる。 (西行法師)
春の海終日のたり。 かな谷口無村
大みそか定めなき世の定めかな (并原西遊)
仙客來遊雲外巔 神龍栖老洞中淵 雪如執素煙如柄 白扇倒懸東海天 (石川丈也)

大正丙辰高林

卷之三



江川八左衛門刻

大正五年十月十七日印刷
大正五年十月二十日發行

大正五年十二月廿五日訂正印刷
大正五年十二月廿八日訂正發行

定價各册金拾八錢

複製
不許

編纂者 弘道館編輯部
書者 玉木本三郎
發行兼印刷者 辻本卯藏

東京市神田區北神保町十一番地

發行所

東京市神田區北神保町十一番地
振替口座東京八一五番

弘道館

